第 15 号(2004.7.26)発行　国絵図研究会〒310-8512 水戸市文京 2 丁目 1-1 茨城大学教育学部小野寺研究室　℡&fax　029－228－8294

国　絵　図ニュース

第 17 回研究会　京都大会のお知らせ

例年にない猛暑ですが、会員諸氏にはお元気のことと存じます。

さて、来る９月７日に第 17 回の研究会を京都府立総合資料館で行います。**同館所蔵の山城・丹波・但馬・播磨国絵図などを熟覧します。また、９月６日に宇治市内の巡見と川村博忠先生に講演を賜わります。**皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

― 記 ―

■ **開催日**　２００４年９月６日(土)～31 日(日)

□**集合場所**　**９月６日 14 時　ＪＲ宇治駅　改札口**

交通　JR 京都駅より快速()・普通()

■ **日程**

●９月６日　巡見・講演会・懇親会

14 時～16 時　ＪＲ宇治駅→新町通り(茶師屋敷・宇治代官所・宇治橋)→宇治平等院→塔ノ島→(宇治神社・宇治上神社・朝日焼窯元)→**宿(亀石楼　℡0774-21-２１７８)**

16 時～京都府立総合資料館所蔵の国絵図についての紹介(礒永和貴)

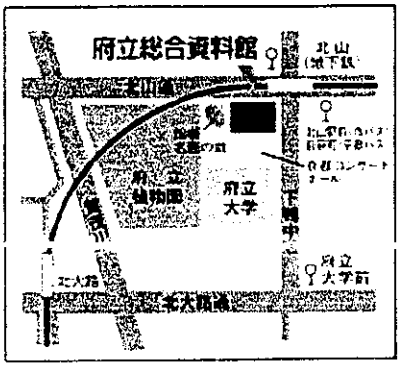
16 時 30～18 時　講演：川村博忠先生「豊後国絵図について」

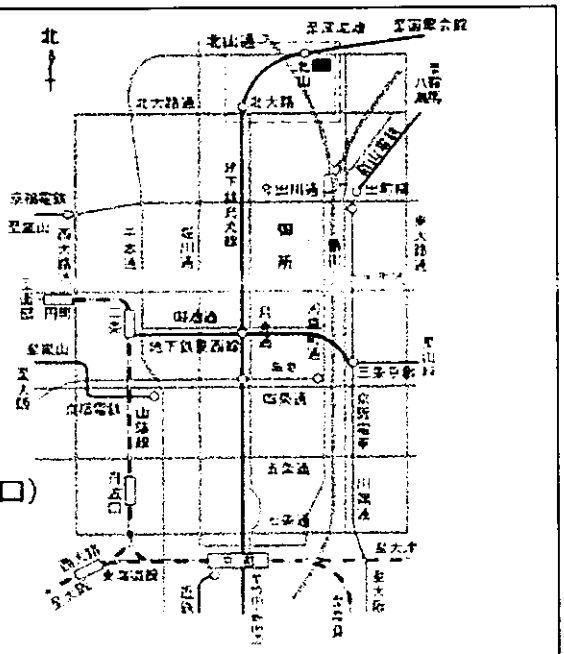
18 時～20 時　　懇親会(講演会・懇親会のみ参加費 7000 円)

●９月７日　熟覧会　　京都府総合資料館正面玄関へ 10 時集合

(熟覧会のみの参加者は、10 時に直接京都府総合資料館においで下さい。)

■ **参加費　　13,000円(宿泊・懇親会費込み)**





京都市営地下鉄
　烏丸線・北山駅下車（①出口）

市バス　4　北 8
　　北山駅前下車

京都バス 28　45　46
　　前萩町下車

参加申し込み方法⇒同封のはがきに必要事項を記入の上、8 月 20 日必着でお申し込みください。

正保筑後国絵図編纂史料の紹介

礒永和貴

元禄国絵図編纂過程については詳しい史料が残されていることが多いが、それに比して正保国絵図の史料は乏しい。正保国絵図の研究が進まないのは、史料の数が少ないことによる。もともと残存量が少ないが、まだ探せばかなりの数が見つかるはずであるし、それを研究者が共用することが求められる。

そこで今回は、西日本文化協会編『福岡県史　近世史料編　久留米藩初期(上)』(福岡県、1990 年)からいくつかの史料を紹介する。掲載にあたっては原文のままではなく句読点や文字を改めた。また、いずれの文書も発給年がないので、上掲の史料集の注記を参照にしつつ推定を試みはしたが自信がない。他国の史料をご存知の方からの情報をせつに願い、あえて想像をまじえて発給年を提示したものである。

221 有馬内蔵助宛有馬忠郷書状写

分領絵図下書見候。能覚候ても中々合点難仕候。併絵図之儀被仰出候間、無沙汰ニ申付様ニ可在之かと存、先井上筑州(政重)江可為見と存事候。菟角一両年之内ニハ何も絵図共被差上ニ而ハ無之様風聞候間、いつれぞよき仕様候而絵図上り候風聞候者、其様子承、重而可申遣候。分領地割候て可被差上との方も有之様ニ承候。如何様ニ仕可然との指図被致方も無之由ニ候。猶追而可申遣候。謹言

中書

九月二日　　忠郷(花押影)

有馬内蔵助殿

正保筑後国絵図の絵図元は、久留米藩の有馬中務輔忠頼と柳川藩の立花左近将監忠茂の 2 人が担当した。各領主は自らの領地を記した「分領絵図」(領分絵図)を作製し、それを絵図元に提出した。絵図元は、それらの絵図を編集して一国絵図に仕立てたのである。この書状は、久留米藩領の分領絵図の下書が完成し、江戸へと届けられた時に国元へ届けられた書状と考えられる。「絵図はよく出来ていると思うが判断しがたいので幕府の責任者である井上政重に見せる」という。それにしても書状の内容は緊迫感に欠け、「どこの国も一両年中は絵図の提出はないという噂である」、「いずれよい絵図ができたらその状況に聞いて指示を出す」、「分領絵図をそのまま提出してもよいという噂もある」、「幕府からどのように編纂せよとの命令もない」と、絵図の編纂にとまどいながらも急ぐ様子はない。幕府の基本方針や編纂の指示の不徹底を示しているのであろうか。こうしたことを考慮すると、まだ絵図の提出に余裕がある正保 2 年の書状とみてよいのではなかろうか。

498 有馬壱岐・同内蔵助宛有馬忠郷書状写

一筆申遣候。仍拝領地絵図無由由断念を入可被申付候。立花左近(忠茂)殿領分入組之儀候間、申合絵図可相作候。左近殿より家来同士申合度由、度々被申候間、柳川留守居と可申合候。謹言

中書

五月廿七日　　忠郷(花押影)

有馬内蔵助殿

有馬壱岐(正盛)殿

久留米領と柳川領は平野で境を接していたために、それぞれの領地が入り組んでい

た。これについて相談することが取り決められている。正保３年と上掲の史料集が書しているので、それを尊重した。発給年を断定する根拠があると思われるが、筆者の勉強不足でその理由はわからない。

348 有馬内蔵助宛有馬忠郷書状写

（前略）

一、拝領地絵図之事下書大方出来之由一段ニ候。左近殿(立花忠茂)分領之下書未出来不申候由、由断故と存事候。左近殿へも絵図不出来之由候間、精を出候様ニ御申可被遣之由申遣候処ニ、無沙汰ニ而出来不致者と殊外腹立候由被申越候。定而柳川へ叱状可被遣と存事候

七月廿九日　　忠郷(花押影)

有馬内蔵助殿

先述したように正保国絵図では、領主が領分絵図を作製しそれを絵図元が編集して一国絵図に仕立てた。この書状では、立花忠家が柳川藩領の領分絵図を作製していないので、精を出すように申し入れたのに何も行動していないのに対して、立腹していることが書かれている。柳川へ「叱状」を差し出すというのは、よほど腹をすえかねてのことであろう。上記の 221 号文書に比べ格段と献上への緊張感が伝わってくるので、おそらく正保 3 年のものではなかろうか。

248 馬渕加兵衛他 2 名宛有馬忠頼書状写

尚々、川之深之儀、天気ニより浅深違可在候間、此帳も仕立仕立候時分之浅深を書付可被申候。以上

追而申遣候。我等分領方々へ之大道併小道筋、付り川之者ハ・深さ・橋なとの寄帳相作せ可被越候。帳之作品能様と奉行衆被申候。帳借候へハ土佐国之が能と被申候間、写て遣候間、我等領分之も此帳之ことく品を仕立可被差越候。謹言

中書

五月十五日　　忠頼(花押影)

有馬内蔵助殿

戸田勘解由(一正)との

馬渕加兵衛(吉次)との

正保国絵図には、「道帳」が同時に提出されている。これには、道路と船路にかかわるさまざまな情報がまとめられた。ここでは、土佐国の「道帳」の内容がよいのでそれを書写して国元に送られていることがわかる。「帳借候へハ」とは、幕府奉行から見本として借りたのであろうか。正保国絵図編纂の最終段階を示す文書と思われる。そのことから正保４年と推定しておきたい。

以上が正保筑後国絵図の関係史料である。久留米藩の正保国絵図や領分絵図などは、いまだ発見されていない。柳川藩については、同藩の領分絵図が『地図のなかの柳川―柳川市史　地図編―』(柳川市、1999 年)に精細な図版が掲載されており、解説も行なわれているので参照願いたい。

正保国絵図の編纂過程は、国々に残る史料の断片をつなぐ根気のいる作業が求められる。この短報がその一歩となれば望外の喜びである。なお、本短報は、『国絵図の世界』の筑後国絵図を担当していただいている梶原伸介氏(大牟田市歴史資料館)とのささやかな史料講読を行った成果の一部であることを申し述べておきたい。

本の紹介

福島雅藏著『近世畿内政治支配の諸相』日本史研究叢刊 14 （発行所　和泉書院・発行年　2003 年・頁数　318 頁・価格　本体 8000 円＋税）

国絵図研究会の発起人の一人である著者は、永年にわたり畿内の幕藩支配構造を徹底的な史料収集に基づく手堅い実証研究で明らかにしてきた。本書は『幕藩制の地域支配と在地構造』(柏書房、1987 年)に続く第２弾である。

第１部「諸領主による上方領政治支配」の第１章では、大和芝村藩１万石が一時期藩総石高の 10 倍に達した幕府領預領の支配を年預＝大庄屋を通しておこなったことを明らかにしている。第２章では、御三卿である清水徳川家の泉州領において幕府の寛政改革に連動して行われた増稼と呼ばれた夜半労働の強制について論じる。第３章は常陸笠間藩、第 4 章では同国の下館藩の上方飛地の支配構造を明らかにしている。第５章では、こうした畿内において幕府の出先機関として広域行政司った堺奉行の山手・川筋巡見を具体的に紹介する。

このように第１部においては、近世後期の幕藩体制動揺期における近畿地方の政治支配を村落支配を越えた広域行政、そして他地域領主の支配という二面から考察がなされている。かつて歴史地理学で山澄元らによって論議された内容とも重なり、こうした課題が再度歴史地理学の議論のテーブルに載せられる必要を痛感する。

第２部「幕府撰国絵図・国郷帳の基礎的考察」の第１章は、天保国絵図・郷帳の泉州・播州の御三卿領の調進過程を在地村落の対応から考察し、これまでの研究では簡略な調査であったとする天保国絵図の調査が詳しく調査されたことを論証し、天保改革(御料所改革)へと進んだことを明らかにした。また、第２章では第１章の事例の補強ために河内国においても天保国絵図の調査が詳細かつ厳格であったこととを指摘し、畿内では天保国絵図が幕府権力の再編成と強化を狙ったことを論証する。特に第１章・第２章では、地方史料の集収から在地の村落おける調査が明らかになった点が重要である。また、利用された史料の全文紹介されており大いに参考になる。第３章は、新発見の和泉正保国絵図についてその記載と描写を克明に紹介し、その特徴を明らかにした。また、第４章は和泉正保国絵図に対応する郷帳の紹介となっている。第５章は、近世の竹内街道のルート河内正保国絵図の記載から考察したものである。

国絵図に関連する本書の大きな成果の一つは、これまで天保国絵図の編纂の特徴を幕府が実高記載を要求したものの表高の記載にとどまったことをもって幕府権力の衰退として位置付けたものを、近畿地方では詳細で厳格な調査が行われたことを論証した点にある。すなわち、政治地図として天保国絵図の性格が、具体的な畿内の地域支配の例を持って論証され、畿内支配という幕府政治の地域的配慮と国絵図関連が明らかになったのである。また、紹介者としては、第１部のような広域支配や飛地領支配の基礎資料として必要不可欠であったのが国絵図であることを強調したい。さらに本書が広く読まれ、地域支配の研究において国絵図との関係がもっと議論されることを願うものである。いうまでもなく国絵図研究の必読の書として推薦する。(礒永)

編集後記●■国絵図研究会のホームページを見ましたか。一度開いてみてください。❤常時原稿を募集いたします。メールで送って下さい。■**会費の納入をわすれていませんか。**一般２、０００円／学生・院生１，０００円。口座番号 00120－6－18473、加入者名国絵図研究会。

ニュース編集担当・・礒永和貴　〒837－0912
福岡県大牟田市大字三池 895－1
℡&fax0944－53－5859
mail アドレス isonaga@k3.dion.ne.jp